



ティー・ロウ・プライス 世界グロース株通信 Vol. 31

ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド

2022年7-9月期の運用状況と今後の見通し

ティー・ロウ・プライス 世界グロース株通信（旧ティー・ロウ・プライス通信）では、金融市場、経済環境、注目セクター、銘柄、金融市場を動かすトレンド等に対する運用責任者の見方などをご紹介します。今回は、当ファンドの2022年7-9月期の運用状況についてご報告いたします。今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願いいたします。

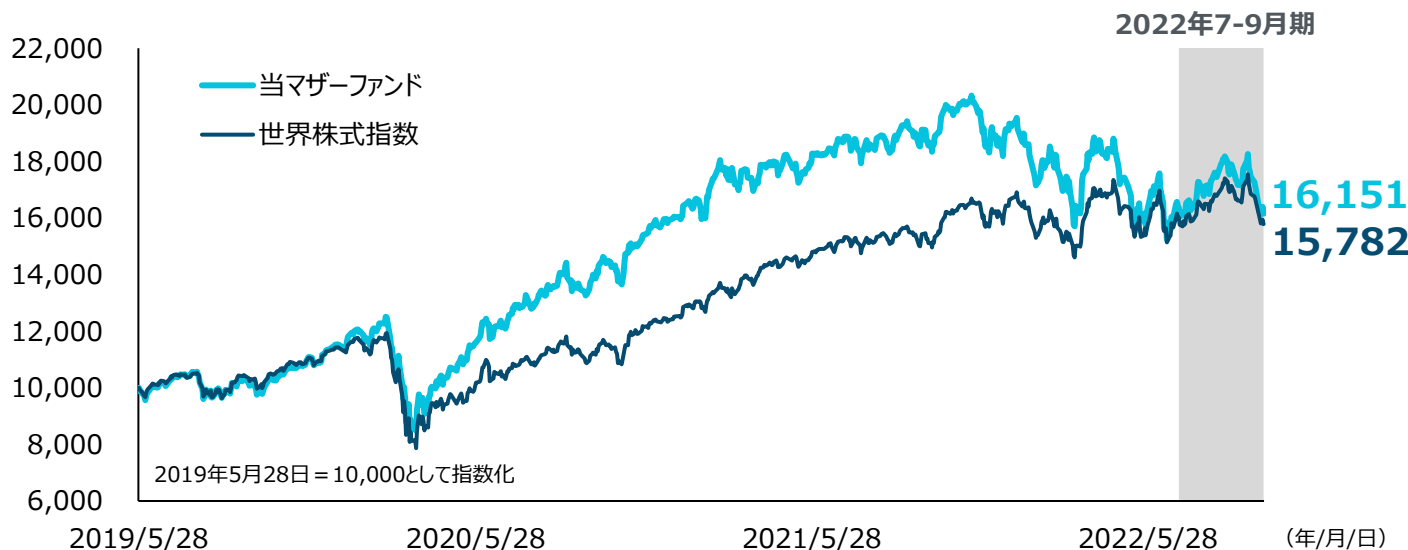


デビッド・アイズワート
運用責任者

要旨

- 2022年7-9月期の株式市場は堅調な推移で始まったものの、パウエルFRB議長が8月に行った講演で金融引き締め緩和に対する投資家の期待が後退したことなどから下落に転じた。
- 世界的な金融引き締めが景気後退懸念を強め、世界の株式市場は変動性の高い局面が今後も続く見込み。
- 様々な変化が起こっている環境下、単に同じ銘柄を保有し続けるのではなく、フレームワークにより忠実な運用を心掛け、ボトムアップ・アプローチによって変化の正しい側に立つ企業を発掘し、マクロ環境や金利の影響を精査した上で投資判断を行うよう努めている。

ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンドのパフォーマンス（円ベース）

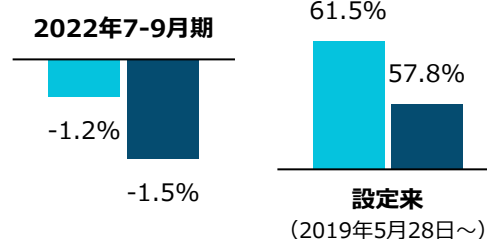


2022年7-9月期の当マザーファンドは-1.2%（信託報酬控除後、円ベース）となり、世界株式指数（-1.5%）を上回りました。

金融セクター内では、変動性が高く、金利が上昇する市場環境の恩恵を受ける企業への投資や、資本財セクター内では景気後退懸念が強まるなかでも堅調な業績や更なるマーケットシェアの獲得余地を有する企業などへの投資が相対的なプラスに寄与しました。

期間別騰落率（円ベース）

■ 当マザーファンド ■ 世界株式指数



期間：2019年5月28日（設定日）～2022年9月30日 出所：MSCIのデータをもとにティー・ロウ・プライス作成

・当マザーファンドは信託報酬（年率1.683%（税込））控除後の値を使用しています。世界株式指数はMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引前配当再投資、米ドルベース）を円換算して応当日ベースで表示しています。
・将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。
・上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

2022年7-9月期の市場環境と投資行動

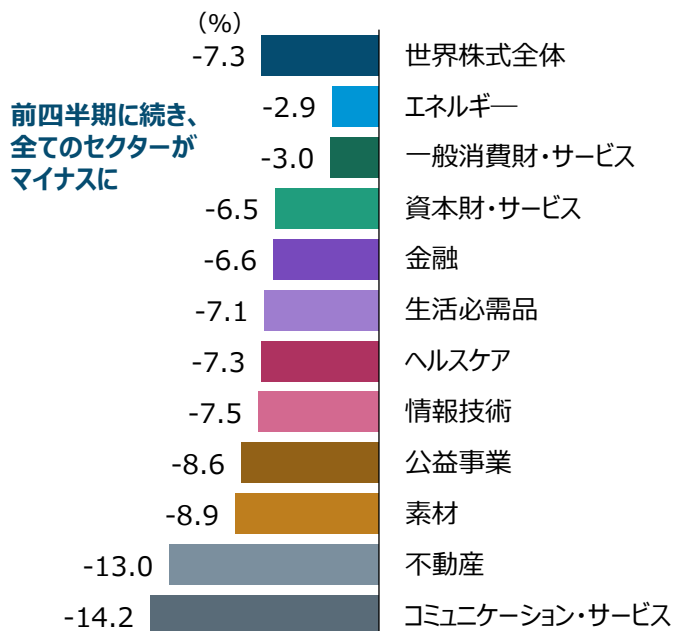
2022年7-9月期は大きく変動する市場環境となり、最終的にはマイナスリターンで期を終えました。

米国においては米連邦準備制度理事会（FRB）が金融引き締めを緩めるのではないかと一時楽観的な見方が広がったものの、パウエルFRB議長が8月のジャクソンホール会議で「景気よりもインフレ抑制を重視して利上げを継続する」意向を述べたこと、インフレ高止まりや労働市場のひっ迫を示す経済指標などが投資家心理を冷やしたことから、下落に転じる結果となりました。欧州ではエネルギー供給不安やそれに伴うインフレに対応するため欧州中央銀行（ECB）が大幅利上げを実施、英国は財源の裏付けがない大型減税策発表により、市場は混乱し、株・債券・英ポンドのトリプル安を招きました。

セクター別にみると、エネルギーや一般消費財・サービスが相対的に下落幅が小さかった一方で、コミュニケーション・サービスや不動産が大きく下落しました。

上記のような環境下、当ファンドでは魅力的なバリュエーションと収益改善に対する確信度の高さを兼ね備えた銘柄に投資を行いました。具体的な銘柄は以下の通りです。

セクター別株式指数騰落率（米ドルベース）



期間：2022年6月30日～2022年9月30日

出所：ファクトセットを通してMSCIのデータを取得してティー・ロウ・プライスが算出（著作権はファクトセットに帰属します）。

・世界株式指数はMSCIオール・カンTRIES・ワールド・インデックス（米ドルベース）を、セクター別指数はMSCIオール・カンTRIES・ワールド・インデックス内の業種別指数（米ドルベース）を使用しています。

主な新規組入・追加投資した銘柄

■ バーリントン・ストアーズ（米国）

余剰在庫品や実売期を逃した商品をメーカーから低価格で仕入れ販売するオフプライス企業。同ビジネスモデルの代表的企業であり、景気後退が懸念される中、低価格商品を実店舗で求める消費者ニーズの追い風を受けると見込み、追加投資。

■ アマゾン・ドット・コム（米国）

広告事業やクラウドコンピューティング事業が改善しつつあること、物流施設投資などコスト面での逆風が緩和されれば、リテール事業の収益構造も改善が見込まれることから追加投資。

■ ICICI銀行（インド）

インドの民間銀行。同国の人口動態と金融アクセス向上が成長を後押しする中で、支店・ATMの屈指のネットワークにより、同社のローン利用を加速させ、市場シェアを獲得する能力があると考え、新規投資開始。

主な売却銘柄

■ セールスフォース・ドットコム（米国）

業績が市場予想を下回り、ガイダンスも引き下げられたことから、より確信度の高い銘柄に投資するため、全売却。

■ アマデウスITグループ（米国）

欧州の景気見通しの不透明性が強まったことを背景に一部売却。業績成長性は有すると見込み、投資継続。

■ アクシス銀行（インド）

シティグループのインド個人向け事業を買収したことで、短期的な不透明性が強くなり、全売却。同業種のICICI銀行などに資金を振り向け。

■ CMEグループ（米国）

同社ビジネスの質は高いものの、ファンダメンタルズとバリュエーションを総合的に評価して、より上昇余地が見込まれる銘柄への投資のため、全売却。

ご参考：2022年6月末と2022年9月末の組入上位20銘柄の比較

景気後退懸念が膨らむなか、様々なリスク要因を注視しつつ、業績に安心感がある銘柄や個別の成長要因を有する銘柄に選別投資。テクノロジー関連など特定のセクターに偏ることなく、バランスを意識したポートフォリオを構築。

2022年6月末時点（組入銘柄数：78）				
	銘柄名	国	セクター	比率
1	チャールズ・シュワブ	米国	金融	4.8%
2	アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス	4.2%
3	エアバス	フランス	資本財・サービス	4.1%
4	マスターカード	米国	情報技術	3.9%
5	ロンドン証券取引所グループ	英国	金融	3.8%
6	TモバイルUS	米国	コミュニケーション・サービス	3.2%
7	ユナイテッドヘルス・グループ	米国	ヘルスケア	3.1%
8	第一三共	日本	ヘルスケア	3.1%
9	アマデウスITグループ	スペイン	情報技術	2.6%
10	マイクロソフト	米国	情報技術	2.3%
11	フェラーリ	イタリア	一般消費財・サービス	2.3%
12	テンセント・ホールディングス	中国	コミュニケーション・サービス	2.3%
13	リパティ・メディア	米国	コミュニケーション・サービス	2.2%
14	ウェスタン・アライアンス・バンコプ	米国	金融	2.0%
15	アルファベット	米国	コミュニケーション・サービス	2.0%
16	セールスフォース・ドットコム	米国	情報技術	2.0%
17	イーライリリー・アンド・カンパニー	米国	ヘルスケア	1.8%
18	シャーウィン・ウィリアムズ	米国	素材	1.8%
19	ホワジュー・グループ (現：Hワールド・グループ)	中国	一般消費財・サービス	1.8%
20	ゼネラル・エレクトリック	米国	資本財・サービス	1.7%

2022年9月末時点（組入銘柄数：70）				
	銘柄名	国	セクター	比率
1	アマゾン・ドット・コム	米国	一般消費財・サービス	6.0%
2	チャールズ・シュワブ	米国	金融	5.2%
3	第一三共	日本	ヘルスケア	3.8%
4	TモバイルUS	米国	コミュニケーション・サービス	3.4%
5	マイクロソフト	米国	情報技術	3.3%
6	ユナイテッドヘルス・グループ	米国	ヘルスケア	3.3%
7	ロンドン証券取引所グループ	英国	金融	3.2%
8	マスターカード	米国	情報技術	3.1%
9	テンセント・ホールディングス	中国	コミュニケーション・サービス	3.0%
10	エアバス	フランス	資本財・サービス	3.0%
11	アップル	米国	情報技術	2.5%
12	フェラーリ	イタリア	一般消費財・サービス	2.4%
13	イーライリリー・アンド・カンパニー	米国	ヘルスケア	2.2%
14	シャーウィン・ウィリアムズ	米国	素材	2.0%
15	バーリントン・ストアーズ	米国	一般消費財・サービス	2.0%
16	ウェスタン・アライアンス・バンコプ	米国	金融	2.0%
17	B3 SA- ブラジル・ボルサ・バルカオン	ブラジル	金融	1.9%
18	アルファベット	米国	コミュニケーション・サービス	1.8%
19	ゼネラル・エレクトリック	米国	資本財・サービス	1.8%
20	Hワールド・グループ	中国	一般消費財・サービス	1.8%

比率が上昇した銘柄

比率が下落した銘柄

- ・ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株マザーファンドの情報です。構成比はすべて対純資産総額の比率です。
- ・セクターは世界産業分類基準（GICS）を使用しています。ティー・ロウ・プライスは、将来の報告についてGICSの更新があればそれに従います。GICSの情報は最終ページをご確認ください。
- ・上記で記載した個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- ・上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

注目しているセクターについて

一般消費財・サービス



セクター内で魅力的なバリュエーションと成長の確信度が高い銘柄に選別投資をしています。消費者行動の急速な変化とeコマース導入が進捗したことで、勝者と敗者の二極化がより鮮明になっています。こうした潮流の変化を踏まえ、バリュエーションに留意しながら、変化の正しい側に立ち、市場で優位なポジションに位置すると考えられるクオリティが高い銘柄に注目しています。

具体的な企業例

- 強力な販売チャネルと顧客層、質の高い商品を持つ企業：プラダ（イタリア）
- 足元の株価調整でバリュエーションが魅力的な水準となったeコマース関連企業：アマゾン・ドット・コム（米国）、ショップファイ（カナダ）
- 旅行需要回復により恩恵を受ける優位なポジションに位置する企業：トレインライン（英国）

コミュニケーション・サービス



伝統的メディア、インターネットを通じたソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）や新興メディアに関わらず、革新的かつ持続的な成長性を有し、変化の正しい側に立つ企業に注目しています。

具体的な企業例

- 5G通信分野でシェアを拡大している伝統的な通信会社：TモバイルUS（米国）
- 人気スポーツなどの放映権を有し、独自の成長要因を有する企業：リパティ・メディア（米国）

ヘルスケア



ヘルスケアセクターは、潜在的成長性と新たな技術発展が加速しているセクターとして捉えており、独自の革新的技術や製品を有する企業に注目しています。

具体的な企業例

- 独自のプラットフォームと新薬候補を有する医薬品関連企業：第一三共（日本）、イーライリリー・アンド・カンパニー（米国）、アセンディス・ファーマ（デンマーク）
- 遠隔かつ微細な作業が可能な手術ロボットを開発する企業：インテュイティブサージカル（米国）
- クラウドなどを活用し、治療の改善と効率化に貢献する企業：ヴィーヴァ・システムズ（米国）

今後の見通しと運用方針

金融引き締めにより投機や過剰な流動性が解消され、投資環境は正常化に向かう

米国の大幅利上げ継続への警戒感から、当面は世界的に不安定な相場展開が予想されます。しかし、当ファンドの運用にとって重要なのは、FRBがタカ派姿勢を転換させるタイミングや、今後景気後退に陥るか否かを予想し、当てることではなく、個々の銘柄への投資テーマが実現されるか否かです。米国の急速な金融引き締めにより、世界の金融市場は不安定な相場となりましたが、同時に市場からの投機や過剰な流動性は解消されました。つまり、コロナショック直後の過剰流動性によりあらゆる企業の株価が押し上げられた市場が大きく調整した今の株式市場は、より個別企業のファンダメンタルズ（財務や業績の状況）に基づいた株価形成がなされる健全な環境に向かっていると考えられます。

世界で起きる変化を見極め、変化の正しい側に立つ企業に投資することを目指す

当ファンドでは、これまで同様、規律あるファンダメンタルズ分析とバリュエーション分析に基づき、個別の成長要因を有する企業をボトムアップで発掘するアプローチを継続します。企業を分析する上で、今後業績が伸びるのか、バリュエーションはどうか、市場に織り込まれていない独自の知見や分析はあるか、などをポイントに見ています。これらの要素に加え、今後想定されるマクロ環境や金利が企業に与える影響を考慮しています。条件を満たす企業の発掘に注力しながらも、慎重な逆張り*姿勢を維持し、市場全体の下落局面など適正な買いのタイミングを見極めています。今後も、特定のスタイルに偏ることなく、持続的な成長が見込まれ、長期にわたり市場を上回るパフォーマンスが期待される優良企業を特定し、機動的に投資することに努める方針です。

*逆張りとは、相場の下落局面で買い、上昇局面で売るという、一見相場の流れに逆らったような投資スタンスを指します。

・上記銘柄は過去の保有状況であり、個別銘柄の売買を推奨するものではなく、価格の上昇や下落、将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。

・将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

・上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンドの特色

1

ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、世界各国の株式(エマージング・マーケット*も含みます。)の中で、成長性が高いと判断される企業の株式を中心に投資を行います。

* エマージング・マーケットとは、経済の発展段階にある国や地域の市場を指し、新興国市場とも呼ばれます。

2

銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ*1」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス*2のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。

*1 ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。

*2 委託会社およびその関連会社をいいます。

3

Aコース／Cコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジ(主要国通貨による代替ヘッジを含みます。)を行い、為替変動リスクの低減を図ります。

Bコース／Dコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

4

決算頻度と為替ヘッジの有無の異なる4つのコースからお選びいただけます。

※市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記1～3のような運用ができない場合があります。

※上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。当ファンドが有する主なリスク(ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドが有するリスクを含みます。)は以下の通りです。

株価変動リスク

当ファンドは、実質的に世界の株式を主要な投資対象としますので、その基準価額は、株式(米国預託証券(ADR)、欧州預託証券(EDR)、グローバル預託証券(GDR)等を含みます。)の値動きにより、大きく変動することがあります。株価は、発行企業の業績、市場での需給関係、政治・経済・社会情勢等の影響を受けて、ときには大きく変動します。発行企業が経営不安や倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。また、当ファンドは中小型株に投資することがありますが、時価総額が小さい企業の株式は、大規模企業の株式よりも価格の変動が大きくなる場合があります。

為替リスク

AコースおよびCコースは、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、主要国通貨を用いた代替ヘッジを行う場合がありますが、通貨間の値動きが異なるため、十分な為替ヘッジ効果が得られないことがあります。また、為替ヘッジを行う際は、通貨間の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があります。また、ファンドの基準価額に影響します。

BコースおよびDコースは、原則として為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接受けます。したがって、為替相場が円高方向に進んだ場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、為替相場は大きく変動する場合があります。

エマージング・マーケット・リスク

当ファンドはエマージング・マーケット(新興国市場)の株式も投資対象としています。エマージング・マーケットは先進国と比較して市場が成熟していないため、流動性が低く、価格の変動性も大きいことから、価格変動リスクが高くなる傾向にあります。また新興国は先進国と比較すると政情が不安定な国や地域が多く、投資対象国・地域における政治体制の変更、法令の変更、経済情勢の変化等の影響が市場におよぶリスクが高くなります。これらのリスクにより、基準価額が下落したり、運用方針に沿った運用が困難となる場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

お申込みメモ

購入時	購入単位	一般コース：1万口以上1口単位または1万円以上1円単位 自動けいぞく投資コース：1万口以上1口単位または1万円以上1円単位(分配金を再投資する場合1口単位) ※購入後のコース変更はできません。詳しくは販売会社にお問い合わせください。	その他	信託期間	原則として無期限(設定日:2019年5月28日)
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・各ファンドについて受益権口数が50億口を下回ることとなった場合 ・信託契約を解消することが受益者のために有利であると認めるとき ・正当な理由があるとき
	購入代金	販売会社の定める期日までにお支払いください。		決算日	資産成長型:毎年3月、9月の各15日(休業日の場合は翌営業日) 分配重視型:毎年3月、6月、9月、12月の各15日(休業日の場合は翌営業日)
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		収益分配	資産成長型:年2回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。 ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 自動けいぞく投資コースの場合、収益分配金は、税引き後、無手数料で再投資されます。 分配重視型:年4回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。 ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 自動けいぞく投資コースの場合、収益分配金は、税引き後、無手数料で再投資されます。
	換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお申込みの販売会社でお支払いします。			信託金の限度額
申込について	申込締切時間	午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。		公告	公告を行う場合は日本経済新聞に掲載します。
	換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、1日1件10億円を超える換金是不可能。 また、委託会社の判断により、別途制限を設ける場合があります。		運用報告書	年2回(3月および9月)の決算時および償還時に、期中の運用経過などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に対して交付します。
	購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日には、お申込みの受付は行いません。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。		スイッチング	スイッチングは、AコースとBコースの間、CコースとDコースの間で行うことが可能です。スイッチングの際には、通常の換金時と同様に税金がかかります。
	購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。 なお、主要投資対象市場の規模・流動性等を勘案し、購入のお申込みの受付を制限することがあります。		課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 税法上、公募株式投資信託は少額投資非課税制度(NISA)および未成年者少額投資非課税制度(ジュニアNISA)の適用対象です。 配当控除の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用			投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
購入時 手数料	購入金額(購入申込日の翌営業日の基準価額×購入口数)に以下の手数料率を乗じた額とします。		運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、 年1.683%(税抜1.53%) の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。	
	購入代金	購入時手数料率			
	1億円未満	3.30%(税抜3.0%)			
	1億円以上5億円未満	1.65%(税抜1.5%)			
	5億円以上	0.55%(税抜0.5%)			
	※購入代金=購入口数×基準価額+購入時手数料(税込) ※スイッチングによる購入は無手数料とします。		その他の 費用・ 手数料	信託事務の 諸費用等	法定書類等の作成等に要する費用(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付および提出にかかる費用)、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%(税抜0.1%)を上限とする額が毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。
信託財産 留保額	ありません。			売買委託 手数料等	組入る有価証券の売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用等が、信託財産から支払われます。 ※運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。

※上記の手数料・費用等の合計額等については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

分配金の留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて分配を行う場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。
- 計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算期末の基準価額は前期決算期末の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者ごとの取得元本）の状況によっては、分配金の一部または全部が、実質的に元本の一部払い戻しに相当する場合があります。

当資料で使用している指数について

- MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス：出所MSCI。MSCIおよびその関連会社、並びに第三者の情報源および提供者（まとめて「MSCI」）は、本稿に記載されるMSCIのデータに関して、明示的または暗黙的に関わらず、いかなる保証や表明は行わず、一切の責任を負いません。MSCIのデータは、その他の指数や証券、金融商品の基準としての更なる再配布や使用が禁止されています。本資料は、MSCIによって承認、審査、発行されたものではありません。過去のMSCIのデータおよび分析は、将来のパフォーマンスの分析、見通しまたは予測を示唆または保証するものではありません。いずれのMSCIのデータも、投資判断のための投資アドバイスや推奨を目的とするものではなく、投資アドバイスや推奨として依拠してはなりません。

世界産業分類基準（GICS）について

世界産業分類基準（「GICS」）は、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル（「MSCI」）およびマグローヒル・カンパニー傘下のスタンダード・＆amp;・プアーズ（「S&P」）が開発した独占的財産およびサービスマークであり、ティー・ロウ・プライスにライセンス供与されています。MSCI、S&PまたはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれも、当該基準や分類（またはその利用から得られた結果）について明示的にも暗示的にもいかなる保証や表明もしません。また、すべての関係当事者は、当該基準や分類のいずれについても、その独創性、正確性、網羅性、商品性または特定の目的適合性について、いかなる保証からも明示的に免責されます。前述の内容を制限することなく、MSCI、S&P、その関連会社またはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれの場合も、直接的、間接的、特別、懲罰的、結果的またはその他のいかなる損害（逸失利益を含む）について、その発生可能性が通知されていたとしても、いかなる責任も負いません。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成したお客様向け資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。
- 当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の通知なしに変更されることがあります。また、当資料で示したデータ等は、情報提供を目的として掲載したものであり、将来の投資成果を示唆、または保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。
- ご購入の際は投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ずお受け取りのうえ、内容をよく読み、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構や保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。購入金額については、元本および利回りの保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 「T. ROWE PRICE, INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ、インクの商標または登録商標です。当資料はティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社の書面による同意のない限り他に転載することはできません。

詳しくは、契約締結前交付書面および投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

お申込み・
投資信託説明書
（交付目論見書）の
ご請求は

野村證券

商号等：野村證券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号
加入協会：日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/
一般社団法人金融先物取引業協会/一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は

T.RowePrice 

商号等：ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3043号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人投資信託協会